

竹中平蔵、江上剛、佐山展生が提言! 金融業界に広がる意外なキャリア・チャンス

ひとつ上を目指す人のキャリア転職情報誌【タイプ】

# type

コンサルティング  
金融業界  
求人情報 全457件

冬のボーナス予測からひもとく  
「異業種転職」成功の秘訣

「業界変え」で  
年収は本当に  
上がるのか?

求められるレベルは? 学び方は?  
ビジネスパーソンの“緊急課題”に迫る  
「英語力」の真実

世界に挑むITカンパニーで描く!  
「グローバル・プレーヤー」  
というキャリア

(連載)スポーツキャリアの転機  
Jリーガー/サッカー日本代表  
中村憲剛



12

December  
2007



ファンド、M&A——業界人も未経験者も今ならステージアップ転職が叶う!

## 金融ビジネス 「仕掛け人」への道

### 注目求人情報

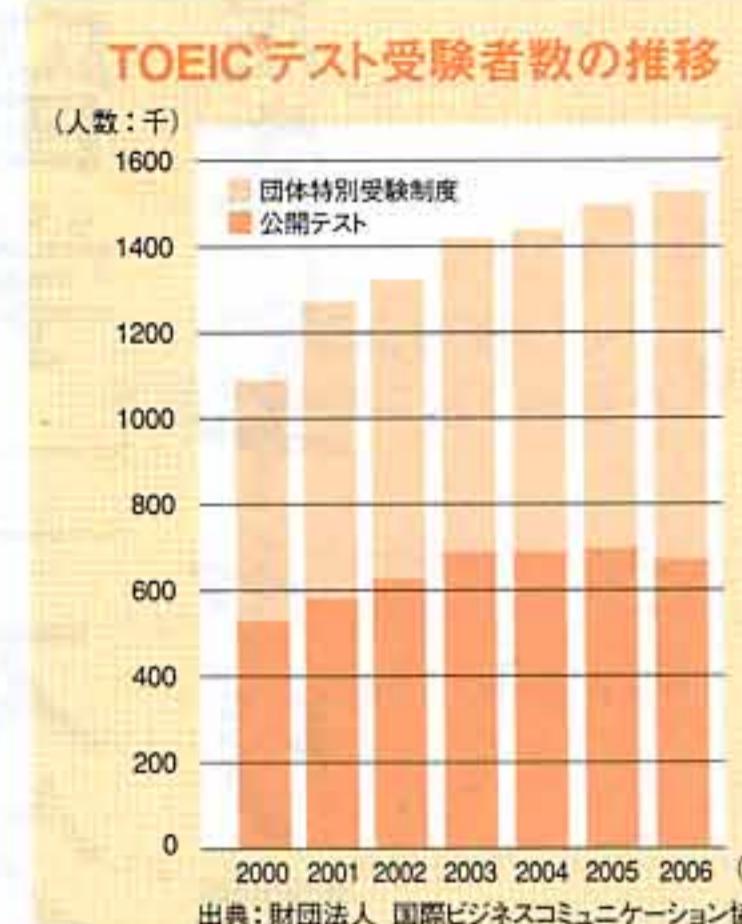
ドイツ証券／みずほ銀行／デル／タタコンサルタンシー サービス ジャパン／SAS Institute Japan  
アーンストアンドヤング・トランザクション・アドバイザリー・サービス／フューチャーアーキテクト  
スカイライトコンサルティング／ウィipro・テクノロジーズ／サイバーエージェントほか

<type>で探して<@type>で応募・登録!

<http://type.jp>

表紙の入/NTTデータ ビジネスコンサルティング 慶山順一氏

300yen



採用や人事考課の材料として  
TOEIC<sup>®</sup>を使う企業が増加

TOEIC<sup>®</sup>の受験者数は2000年頃から急増。特に企業や団体が実施する「団体特別受験制度」の利用は着実な伸びを見せる。TOEIC<sup>®</sup>を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会の花井玲さんは、こう話す。

「企業を対象とした2007年度のアンケートでは、TOEICスコアを「配属の参考にしてる」が50.1%、「採用時に考慮している」が53.9%という結果でした。TOEIC<sup>®</sup>は結果がスコアで表示され、個人や部署間の比較が容易なので、人事の方も使い勝手が良いのでしょうか？」

受験者の職種別内訳は「技術」が最も多く、以下「営業」「研究」「製造」と続く。これは海外・国際部門に限らず、どの職種でも英語力が求められていることを示している。昨年、問題形式を一新し、より実践的な英語力を測れるようになり、採用や人事考課における信頼性はますます高まると見られている。

財団法人  
国際ビジネス  
コミュニケーション協会  
広報部 広報部  
花井 玲さん

## ●英語のできる人材のニーズが高まりつつある業界・職種

### 不動産

#### 海外の不動産投資に注力

これまで国内マーケットだけではビジネスを開拓してきた企業が、海外での不動産投資に注力する。この事業範囲の広がりにより、即戦力として期待できる英語力のある人材を求めるケースが増えている。特に最前線に立つ営業職は、現地関係者との議論や交渉をリードできるだけの会話力やディスカッション能力が必要とされる

### 商社

#### 海外投資や事業開発が主力業務に

現在の商社は、投資や事業開発がビジネスの中心。海外で事業を展開する際には、当然のことながら現地の人間と交渉したり英語による書類やレポートを日常的に扱うことになる。また、投資先の企業が収益を上げられるよう管理するには、グローバルでの情報収集や現地スタッフとコミュニケーションに困らないだけの英語力が不可欠だ

### メーカー

#### 下請けの中小企業も海外へ進出

大手はもちろんのこと、最近では2次、3次の下請けメーカーが海外へ進出する事例が増加。海外に子会社を設立したり、技術指導のために人材を派遣するなど、英語が必要となる場面が増えている。こうした中小企業には英語ができる人材がまだ少なく、その条件をクリアすれば若手でも広い範囲で仕事を任せられると見られる可能性が高い

### 業界

### 財務・会計

#### 国際ルールの理解に英語は必須

会計法やJ-SOXなど、財務・会計に関するルールが大きく変化。これらは国際基準に基づくものだけに、内容を理解するには英語力が欠かせない。また、海外子会社を持つ企業では、上がってくるレポートはすべて英語。海外投資をする場合も、株主として英語で評価をしなくてはいけない。この職種での英語力はすでに必須条件といえる

### 技術者

#### 日本市場のニーズを本国へ伝える

外資系企業が日本市場を重視し始めたおり、日本の顧客に合った製品やサービスを開発しようと努力するメーカーが増加。そこで日本にいる技術者が顧客の要望や現場の状況を本国にフィードバックし、開発の一端を担う機会が増えている。20代の若手でも、英語力に自信があれば、日本の顧客と本拠を結ぶ重要な役割を担うことができる

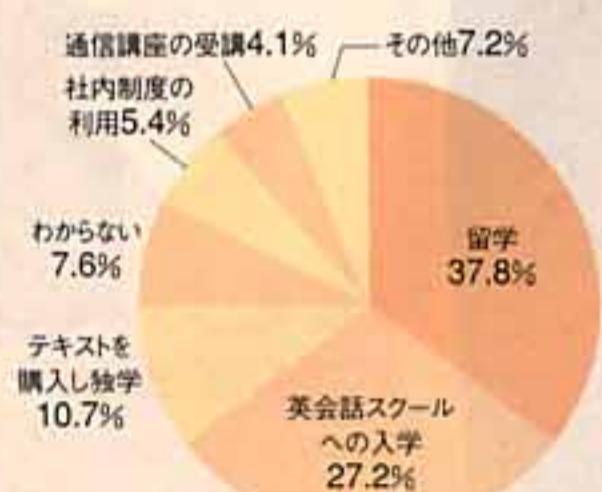
### 職種

### 経営企画

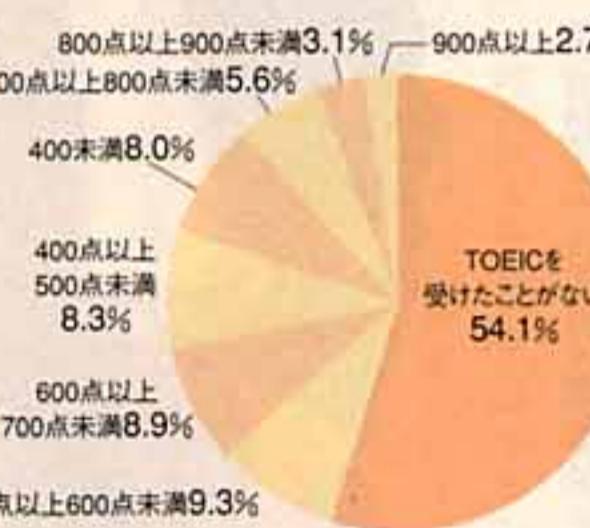
#### 国際的な視野を持って事業を計画

海外拠点を持つ企業では、経営企画を担う人材にも国際感覚が不可欠。事業計画や新たにできたルールや制度は、外国人の従業員や株主にも理解できるよう英語で発信する必要がある。また、企業買収や事業提携の相手が外資系であれば、交渉の場でも英語力が求められる。海外拠点を新設する際のリサーチや現地との交渉においても同様だ

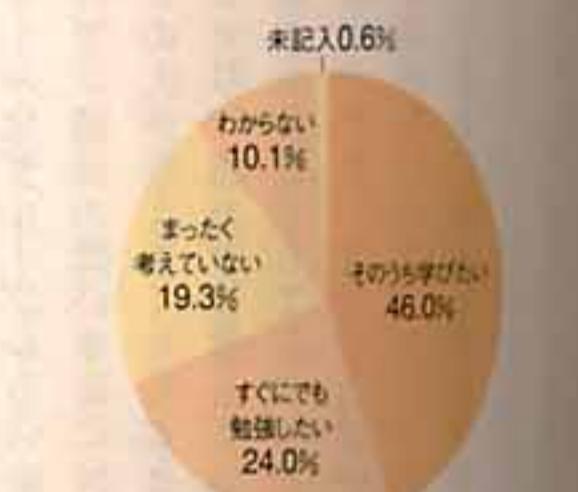
### Q6. 英語を学ぶのに一番いいと思われる方法は?



### Q5. 一番最近のTOEICスコアは何点?



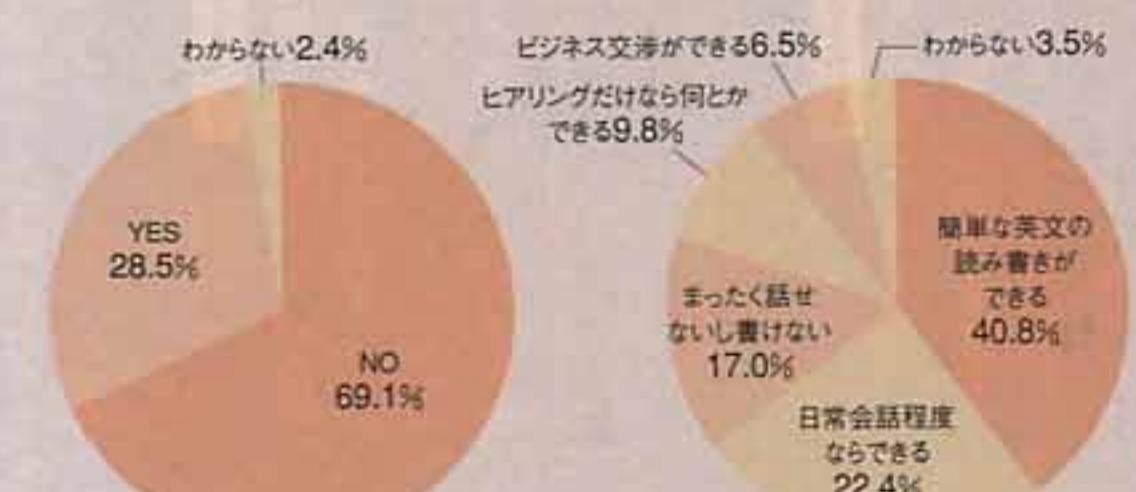
### Q4. 今後英語を勉強したい? (Q3で「NO」と答えた人のみ)



### Q3. 現在英語を勉強している?



### Q2. 現在仕事で英語を使っている? Q1. あなたの英語力はどのレベル?



# 求められるレベルは? 学び方は? ビジネスパーソンの“緊急課題”に迫る「英語力」の真実

今、さまざま業界や職種で英語力を備えた人材のニーズが高まっている。  
自分らしい方法でいち早く英語を習得し、現在の業務スキルに英語力をプラスするとどうキャリアが広がるのかを考えてみよう。

取材・文／塚田有香、大亀慎也（編集部）  
撮影／外川孝、大澤誠  
イラスト／福原やすい

「15年ほど前は、英語力のある人材を求めるのはほとんどが外資系企業でした。しかし、日本が不況から脱した2005年頃から、日系大手やベンチャー、中小企業までが英語力を重視するようになっています」

そう話すのは、海外留学経験者のキャリアカウンセリングを数多く手掛けたアクシアムの渡邊光章氏。その背景には、急速なグローバル化に伴うビジネス環境の変化がある。

「つまりは、日本も海外市場の一つになつた」ということ。アメリカや欧州から見れば、当然な国境がある」

こうした状況を反映し、企業側の人材採用に対する意識も変わりつつある。グローバル人材の転職事例に詳しいジェイエイシージャパンの吉田朋代さんは、こう説明する。

「以前は英語力のある人材を社内で育成しようとする傾向が強く、企業が費用を出して研修や留学へ行かせていました。しかし、その効果は必ずしも期待通りではないことも多かつた。そこで、外部から高い英語力を備えた人材を採用したほうがコストが大きいと判断するようになります」

「以前は英語力のある人材を社内で育成しようとする傾向が強く、企業が費用を出して研修や留学へ行かせていました。しかし、その効果は必ずしも期待通りではないことも多かつた。そこで、外部から高い英語力を備えた人材を採用したほうがコストが大きいと判断するようになります」

「以前は英語力のある人材を社内で育成しようとする傾向が強く、企業が費用を出して研修や留学へ行かせていました。しかし、その効果は必ずしも期待通りではないことも多かつた。そこで、外部から高い英語力を備えた人材を採用したほうがコストが大きいと判断するようになります」

## ビジネスパーソンの英語事情



採用市場における英語力を備えた人材の市場価値は高まるばかりだが、対して一般的なビジネスパーソンの現在の英語力レベルと、英語習得に対する意識はどうなのだろうか？

アンケートを取ってみたところ、大半の人が英語力を備えておらず、またそれほど習得意欲も高くないという結果になりました。

## 社内研修

より市場価値の高い  
英語力が身に付く内容へ

「ここ数年で英語研修を取り入れる企業は増加している」と、個人レッスンから企業向け研修まで、幅広い語学教育サービスを展開するベルリツ・ジャパンの吉田圭氏は話す。

「昔に比べて、業務で英語が必要とされる部門や職種の幅が広がっています。最近では大企業のみならず、ベンチャーからの依頼も増えてきていますね」

社内研修によって、企業は自社の社員に実践的な英語力を養ってもらうことを目指している。つまり、ただ話せるのではなく、英語を使ってビジネスができるレベルだ。こうしたニーズに応え、ベルリツではよりグローバルビジネスの現場に即した研修の提供に力を入れている。

「プレゼンやテレビ会議などで使う基本的なビジネス英語はもちろんですが、より円滑なコミュニケーションを実現するために、ビジネスシーンで起こり得る日常会話も併せてレクチャーしています」

受講者からは、「実際に仕事で英語を使ってみると「天候や健康に関する話題も重要だと実感する」という声が寄せられているという。さらに、吉田氏は「研修を福利厚生の一環ではなく、戦略的な投資と考える企業が増えている」と続ける。

「社内研修は企業が即戦力化を狙って提供しているものですから、その内容から市場価値の高いビジネスパーソンに求められる英語力のレベルも自ずと分かるはず。明確な指標が提示される分、やみくもに独学で勉強するよりも効率的に英語習得ができると思いますよ」

帰国後、SAS Institute Japanへ転職し、SE時代に培った技術スキルと英語力を活かせる、SAS製品の営業支援を行うブリセールス・コンサルタントとして働いています。現在は、書類の読み書きや日本から来日した技術者から講義を受ける際などに、英語力が非常に役立っています。

留学中は、日本人学生と距離を置き、頭の中の思考もすべて英語に切り替えました。家にいる時もテレビやDVDを意識的に見て生の英語に触れ、新聞も1日3紙は目を通しました。英語漬けになれる環境を自ら作り出るように心がけましたね。留学を成功させる秘訣は、明確な目的意識を持つこと。それがなければ、単なるバケーションになってしまいますから。

吉田圭氏



帰国後、SAS Institute Japanへ転職し、SE時代に培った技術スキルと英語力を活かせる、SAS製品の営業支援を行うブリセールス・コンサルタントとして働いています。現在は、書類の読み書きや日本から来日した技術者から講義を受ける際などに、英語力が非常に役立っています。

## 自宅での学習は 時間管理を上手に

## 通信講座

★費用…約6万5千円  
★期間…4カ月

英語学習を始めたのは、2007年2月からIT企業で受付として働き始めたことがきっかけ。外国人のお客様が想像以上に多く、うまく英語で対応できない自分に不甲斐なさを感じたんです。インターネット上で受講できる通信講座があると知ったのはそんな時。自分の都合に合わせて時間を使いたいと思っていました。

私が受講したのはヒューマンアカデミーの「経済トピックで学ぶビジネス英会話」、「E-MAIL BUSINESS ENGLISH」、「TOEICスコアアップ730点」という3コース。会社から帰宅した後や出勤前の時間帯を利用し、毎日1時間ほどを学習時間に充てました。ただし、「時間ができたらやろう」という気持ちでは続かない。自分で時間を作る努力も必要です。私の場合は、ニュース以外のテレビ番組を見ないようにしていました。また、通勤時間も有効活用しようと考へ、A4サイズのノートパソコンを購入。通信講座の内容

を収録したCD-ROMで勉強する

ようにもしました。時間を上手に管理することが継続するコツだと思いますね。

「一人生きでは続かないかも」という不安もありましたが、問題が解けではありませんが、結果的には学びではありませんが、結果的には学ぶことができたことが役立っている。早めに自己投資をしておいてよかったと思いますね。

予感が的中したのは、2004年に転職してから。現在勤めるハイテク機器メーカーでは、前職に比べて英語を使う頻度が格段に増えました。

入社して3年間はソフトウエア開発に携わりましたが、海外への外注が多いため、外国人技術者が社内に常駐することもあるし、テレビ会議で現地とやりとりすることもあります。

英語を使う頻度が格段に増えました。ただ、「いつかは英語が必要となる仕事に移るかもしれない」という漠然とした予感を抱き、将来のために投資をしておこうと考えたのです。独学では続ける自信がなかったし、社会人になつて間もない頃だからこそ、留学という選択肢を考えられない。会社に勤めながら、英語を勉強しながら、英語を身につけていました。

吉田圭氏

Gaba 自由が丘校 受講生  
西森公治 氏 (35才)  
大学卒業後、パソコンや通信システムを扱う大手メーカーに入社。ネットワーク関連の商品開発に携わる。2004年、ハイテク機器メーカーに転職。ソフトウエア開発に従事した後、現在はハードウエアの開発を担当

SAS Institute Japan 株式会社  
ビジネス開発本部  
プラットフォームビジネス開発部  
高橋健太 氏 (26才)  
2003年、新卒で中堅SIerに就職。  
SEとしてWeb系システム構築に携  
わる。2006年3月に退社。4月よりカ  
ナダのバンクーバーへ10カ月間語学  
留学。2007年7月にSASへ入社

## 留学

★費用…200万円  
★期間…10カ月

## 明確な目的意識を 持つことが成功のカギ

24歳の時に勤めていたSIerを退職し、カナダで10カ月間の語学留学を経験しました。留学という手段を選んだのは、生の英語を学びたかったから。何しろ自身は将来を考えるとメリットのほうが大きいと確信していたので不安はありませんでした。このままで、一緒に習得するのが一番だと判断したのです。「キャリアを中断しての自費留学はリスクが大きいのでは」と言われたこともありました。私が語力を身につけるにはネイティブに囲まれた環境に身を置き、集中して

はありませんでした。

吉田圭氏

自分に一番適したツールを選び、英語を学び、キャリアを広げたのか。英語を学び、キャリアを広げたのか。そのノウハウを学ぼう。

# 「留学」「スクール」「通信講座」で英語習得 一足先にキャリアアップを実現!



## スクール

★費用…330万円  
★期間…7年半

## 自分を追い込むことで 効果的に英語を習得

自分に一番適したツールを選び、英語を学び、キャリアを広げたのか。英語を学び、キャリアを広げたのか。そのノウハウを学ぼう。



SAS Institute Japan 株式会社  
ビジネス開発本部  
プラットフォームビジネス開発部  
高橋健太 氏 (26才)  
2003年、新卒で中堅SIerに就職。  
SEとしてWeb系システム構築に携  
わる。2006年3月に退社。4月よりカ  
ナダのバンクーバーへ10カ月間語学  
留学。2007年7月にSASへ入社

## ● 実例多数! 「年収アップ転職」に効く英語力

### CASE 1 I.F氏 (28歳)

国内系 Slerの SE 550万円	外資系 通信会社の プリセールス 800万円
-----------------------------	---------------------------------

I.F氏は学生時代に留学経験があり、TOEICも800点台のスコアを持っていたが、前職では英語を活かせる機会に恵まれなかった。そこで英語力を強みとしてアピールすることでさらなるキャリアアップを図ろうと、外資系企業の採用面接を受ける。前職で培ったSEの経験と専門スキルに加え、語学力も評価されたことで見事採用。年収も一挙に1.6倍にアップ

### CASE 2 M.T氏 (25歳)

国内系 大手通信会社の エンジニア 450万円	外資系 ソフトウェアメーカーの サポートエンジニア 560万円
----------------------------------	--

通信会社でネットワーク構築に携わっていたM.T氏。より技術力を向上できる環境を求めて人材紹介会社に登録。もともと英語は得意だったが、社内研修や独学での勉強を続けていた。また、転職先である外資系メーカーの製品を前職で扱っていたため、専門知識は充分。まだ25歳と若く、スキル・英語力とも今後まだまだ伸びる可能性も含め、高評価での採用となった

### CASE 4 D.E氏 (28歳)

都市銀行の 法人営業 500万円	外資系 不動産金融の アセットマネジャー 900万円
------------------------	-------------------------------------

新卒で都銀に入行したD.E氏。社内の留学制度を利用して、アメリカのビジネススクールでMBAを取得。ファイナンスを専攻し、ポートフォリオマネジメントや投資分析について学ぶ。帰国後は銀行に戻るが、国際的な環境で学んだことをより活かしたいと考え、金融に強い人材紹介会社に相談。MBAホルダーとしての資質を評価した不動産金融会社への採用が決まった

### CASE 7 T.A氏 (31歳)

中堅 医薬品メーカーの 人事 450万円	外資系 医療機器メーカーの 人事 600万円
-------------------------------	---------------------------------

採用を担当していたT.A氏は、勤めていた会社の業績が落ち込み、自身の給与やボーナスに将来性が見込めなくなったため転職を決意した。5年ほど前から先行投資のつもりでビジネス英語のスクールに通学しており、年収アップも期待して外資系への転職を希望。求人サイトで見つけた外資系メーカーの面接を受け、8年間にわたる実務経験も評価されて採用となる

### CASE 5 T.C氏 (27歳)

大手 食品会社の プリセールス 500万円	外資系 消費材メーカーの マーケティング 650万円
--------------------------------	-------------------------------------

食品会社でブランディングを担当していたT.C氏。以前から外資系メーカーでの勤務に憧れており、機会があれば転職したいと考えていた。大学時代に半年間の短期留学経験があり、その後も英会話スクールに通い続けて学習を継続。TOEICで820点を取ったのを機に、本格的に転職活動を開始。マーケティングに強いことで有名な外資系メーカーへの入社を果たす

### CASE 3 S.O氏 (35歳)

旅行会社の 経理 750万円	大手 ITベンチャーの 経理 900万円
----------------------	-------------------------------

海外に子会社を持つ旅行会社に経理として勤務していたS.O氏。ここで連結決算に関する実務経験を積んだ。ビジネス英語に特化したスクールに通学し、海外部門とのやりとりに必要な英語力を身に付けた。そのキャリアを、世界各国で事業を展開するIT企業が即戦力として評価。若手の多い職場を束ねるマネージャーとして採用され、好待遇で迎えられた

### CASE 6 J.M氏 (29歳)

電子部品メーカーの 法人営業 480万円	外資系 半導体メーカーの 法人営業 650万円
----------------------------	----------------------------------

営業として大手家電メーカーを担当してきたJ.M氏。英語はそれほど得意ではなかったが、キャリアカウンセラーから「外資系でも担当する顧客は日本企業。日本語での営業経験も評価の対象になる」と助言を受け、洋語商品や顧客が前職に近い外資系半導体メーカーに応募。事前に集中して英語を学習し、募集要項の「TOEIC600点以上を目安」という条件もクリア

### CASE 8 I.U氏 (25歳)

国内系 IT コンサルタント 400万円	外資系 戦略 コンサルタント 520万円
-------------------------------	-------------------------------

大手電気機器メーカーの系列であるITコンサルティング会社に就職したI.U氏。しかし「この職場には自分が成長できる環境がない」と考えるよう。第二新卒クラスの若手で英語力があれば戦略系への転職も可能だと知り、キャリアチェンジを希望。10代の頃に海外生活を経験し、もともと英語は得意だったため、採用試験でのペーパーテストも高得点を獲得

### CASE 9 H.F氏 (28歳)

大手 Slerの SE 550万円	監査法人の システム監査 700万円
----------------------------	--------------------------

Slerに勤めるH.F氏は、偶然目にしたビジネス誌の記事でSEからシステム監査へ転職する事例が増えていることを知る。調べてみるとシステム監査の求人は「英語力があればなお可」ということが判明。3年前からTOEIC対策の勉強を続けており、スコアは700点に到達。SEの経験と合わせて評価され、国際会計事務所のメンバーフームである監査法人へ転職

転職市場で英語力のある人材を求める企業は確実に増えている。ただし、「英語力さえあれば、どんな仕事ででも就ける」と考へるのは大きな間違い。現状はそれほど甘いものではない。「特に外資系企業では、英語力は最低限の応募条件であると考へたほうがいい。英語力は評価を高めるプラスαではなく、あくまでも必須事項なのです。実務で英語を使う職種であれば、TOEICスコアは800点以上欲しいところですね」(吉田氏)

では、何が採用の合否を決めるのか。

それは当然のことながら、その仕事を果たすために必要なスキルや経験を備えているかどうかという点だ。

「例えば、今まで日本企業で国内営業をやつてきた人が『独学で英語を勉強してTOEICのスコアをアップして、海外営業の職を紹介してほしい』などと言ってくることがあります。でも、国内市场しか経験していない人が、いきなり海外市场を相手とする仕事に就くのは難しい。それは英語力の問題ではなく、経験がないという点がネックになるのです」(吉田氏)

## ● 経験やスキルがなければせつかくの英語力も無駄に

渡邊氏も「まずは、『英語を使って何がしたいのか』を明確にすることが大事」と話す。

「将来マネジメント層を目指すなら、ツブに口頭でも文書でも的確に指示を出せるだけの英語力が必要になる。一方で、例えばアジアの製造現場で直接指導するような仕事なら、700点台でも十分に務めは果たせる。どんな仕事をしたいのかがはつきりしないまま、TOEICのスコアを上げる勉強だけしていても意味がない」

まずは現在の仕事で次につながるだけのスキルや経験を磨くこと。それを踏まえた上で英語力を身につければ、キャリアの選択肢は大きく広がる。

「英語が理解できれば、インターネット上にある世界中の求人情報にアクセスできる。勤務地を日本に限定する必要さえもなくなるのです」(渡邊氏)

同じ業務内容でも、外資系に移っただけで給与が1.5倍から2倍に跳ね上がるケースも珍しくない。英語力によって、給与や勤務地などの条件の範囲も限りなく広がることになるのだ。

## ● 現職スキル×英語力で実現する「仕事力UP」モデルケース



- 現職スキル
- 技術知識
- 開発・設計能力
- 業務知識、製品知識
- PCスキル

### 英語力



- 現職スキル
- 出納業務・会計業務
- 薄記資格
- 経営分析
- PCスキル

### 英語力



- 現職スキル
- 商品知識、業界知識
- コミュニケーション能力
- 企画提案力
- プレゼンテーション能力

### 英語力

● CPA (米国公認会計士)  
会計職種の人材ニーズは全般的に高いが、簿記資格に加えてCPAを取得すればさらに高い。外資系企業をはじめ、手企業、外資企業がCPA取得者の活躍フィールドは広い。

● 第二外国語

特に商社や貿易関連の企業では、英語に加えて第二、第三の語学ができるは活躍のチャансはさらに高まる。最近ではロシアや中国、アラブなどに新たなビジネスチャンスを見いだす企業が増えてきた。ただし、あくまでも共通語である英語ができる上での評価。英語力がなければそのほかの言語への評価も下がる。

● 第二言語

語学ができないは活躍のチャансはさらに高まる。最近ではロシアや中国、アラブなどに新たなビジネスチャンスを見いだす企業が増えてきた。ただし、あくまでも共通語である英語ができる上での評価。英語力がなければそのほかの言語への評価も下がる。

● 第二言語